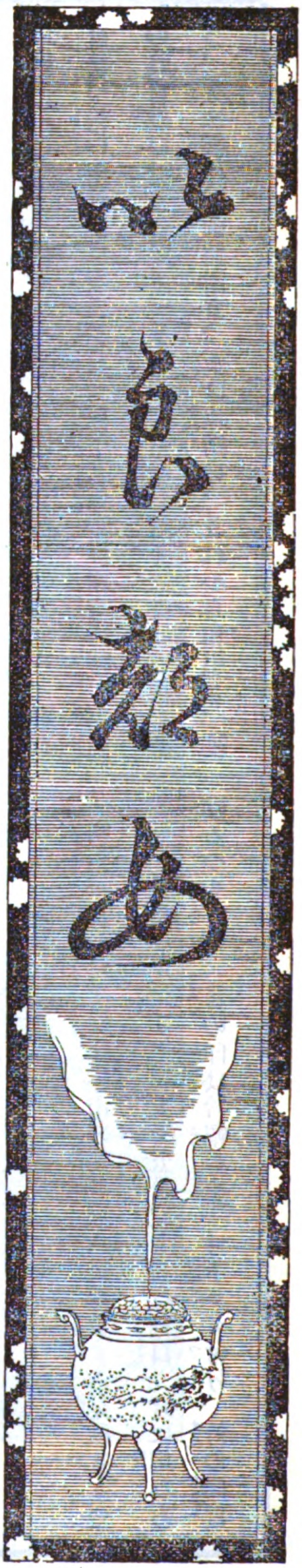


いらつめ第卅二號目次（明治二十二年十一月廿二日）

●石版插畫……老梟月に啼く圖（色刷）……小林清親
●家　政……裁縫獨學ひ（初等第四）……木下貞子
解き物一切＝襦袢及び男女衣服の止め處＝印半纒裁縫法＝並男物半纒裁縫法
○衛生料理法（其四）……岩　田　芳　松
洋風天ブラ＝魚類衣あげ＝海老西洋あげ＝牡蠣天ブラ＝天ブラに用ゐる汁製法＝生蠣レモン酢漬け＝牛蠣日本酢漬
●文藝美術……細川幽齋和歌の主義漫評（其一）
○小女裁縫の歌（唱歌）……いらつ姫
○利己の歌（唱歌）……拈　微　子
○東西美術相互の影響（其一）
○第六回懸賞文藝得點文章二編
●雜　纂……裸体婦人畫禁止＝猥褻さ德川文學＝身體白色法心得一切（承前）＝生れ月に因り婦人の性質を知る歐米人の奇說＝流行の髮形＝櫛簪類＝織り小紋の流行＝女子用文章獨學び（第一）其他
●畫　題……唱歌……美妙齋主人
●通信問答……砒石白色法＝髮が優れる＝古人の筆蹟寫し方＝鼠を防ぐ法＝近眼豫防法＝貴人への手紙色紙を用ゐるのは失禮＝顏の毛を拔き去る法＝赤い頰を治す法
●答　書……婦人に適する枕＝胡瓜靑漬法＝黑子の跡のアバタを去る法＝最上饅頭製法＝一般に利くワキガ療法＝油足を治す法＝羅紗帽子洗濯法
●餘　興……新題

社告及び社則　いらつめ一部並製金二錢五厘郵稅共金三錢、十二部金二十九錢郵稅共金三十五錢、二十四部金五十七錢郵稅共金六十九錢、三十六部金八十四錢郵稅共金一圓〇二錢、四十八部金一圓郵稅共金一圓二十四錢●別製一部金三錢五厘郵稅共金四錢、二十部金六十五錢郵稅共七十五錢、五十部金一圓六十五錢郵稅共金一圓九十錢●並別兩製共前金領收の上で無くては差上げぬ事●府內に限り無郵稅●每月四回（八日十五日二十二日三十日）發兌●金子御差し送りの手續きは郵便小爲替なれば拂渡郵便局さある處に（神田郵便局）と記し、受取人欄內に（神田平永町九番地成美社）と御記入の事●郵劵代用は郵便爲替の無い處に限り五厘切手で一割り增しなれば妨げ無い事●見本は五厘切手で並製三錢別製四錢領收の上差上げます●廣告料一行金八錢、割引無し●第廿八號から本社から賣り出す證として雜誌の表紙に成美社の捺印を加へましたから是を目標として御求めを願ひます。捺印の無い雜誌に就いては本社で一切責に任じません。捺印の無いのを御求に爲っても代金御支拂に及びません。

從第二十八號至第三十七號十部版權所有

新案別製本出版の社告　度々の御注文により第二十六號からいらつめ別製本を作り、永く保存よ堪へるやうにしました。（一）別製本は美麗堅牢ゐ紙に本文を印刷する事（二）別製は容易に再版をせぬ事ゆゑ御注文は至急で無ければ賣れ切れにあります（三）別製並製共記事は相同じです（四）定價は前にあります（五）第二十六號第二十七號及び第二十八號の別製本は悉皆賣れ切れになりました。

いらつめ合本の社告　西洋諸國の婦人雜誌では大抵一仙か一ペンニの月三回以上發兌でそれを一ヶ月の後になり、一ヶ月分だけ合本し、表紙を付けて賣り出します。いらつめでも是に倣ひ、來る十二月が過ぐれば更に十二月分だけを合本し、美麗ゐ表紙を付けて賣り出します。定價金十錢五厘郵稅共金十二錢、紙數八十四ページ、總目錄付き。府內無郵稅。但し本十一月に限り十月の第廿八號から十一月最後の三十三號に至るまで總六册を一部に合本して賣ります是は續稿にあった記事が彼是ある爲めです是は定價十五錢五厘郵稅共十七錢五厘です。

注　意

本號には身體白色法心得一切と生れ月により婦人の性質を知る法と新流行とが出て居ます

明治二十二年十一月廿一日　印　刷
明治二十二年十一月廿二日　出　版

發行人　東京市神田區平永町九番地居住　山田武太郎
印刷人　同市同區同町同番地成美社方寄留　佐野忠吉

發行所　東京市神田區平永町九番地　成　美　社

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

いらつめ第三十二號

家政

裁縫獨學び（初等第四）

木下貞子

解き物の事

解き物は衣服の縫ひ方、鍼の止め方を知るため初學に爲さしめるものゆゑ襦袢單衣から始め、袷物に移るのです。

解き方は一般にまづ衿の絎け目を解き、次が袖口褄下裾口ですが、袷は表と裏とと別けて後衿を解き。次に兩衽と左右の脇袖を離し、背縫ひを終りにします。　簡略な襦袢を解くには半衿、次に衿袖兩脇　次に背縫ひを解くのです。　單衣はまづ衿の絎け目、次に袖口、褄下、裾絎け兩方の衽、左右の脇背縫ひ、この順で解きます。　袴を解くにはまづ紐を解き、次に腰板、前紐附き、次に裾絎け、それから相引き、衽稜、次に脇布、奥布、終りに前後の襠を解くのです。まづ右のとほりですが、その間に小切れも挾まつて居ますからよく注意しないといけません。

襦袢及び男女衣服の止め處の事

襦袢は第一半衿の左右に二所、三衿に一處、左右衿先きに二處、袖付きの左右に二處、袖口に二處、脇縫ひに二處、裾口に五處、べすて十六ヶ處あります。

男服は三衿に一處、劍先きに左右二處、衿先き、左右の袖口、袖形、袖の左右、裾先き兩方、衽の縫ひ目の左右、脇縫ひの兩方に各々二處、背縫ひに一處、併せて十八ヶ處です。

女服は男服より止め處が六ヶ處多いです。　前後の袖口左右に四處、八口の兩方に二處、是丈が男のより多いのです。

羽織りは紐付きの兩方に二處、三衿に一處、衿先き、袖口の左右、袖付き、袖形に各　四處、兩方の襠に四處、背縫ひに一處、併せて十六ヶ處です。

印半纏の裁縫法

常巾一丈五尺に別に半巾の切れ地六尺で製する見積もりです。

袖丈一尺、丈二尺七寸五分裁ち切れ袖口九寸に縫ひあげるつもり。　背の印は衿幅から一寸下ッて付け、衿の印は

秋夜之圖

Digitized by Google

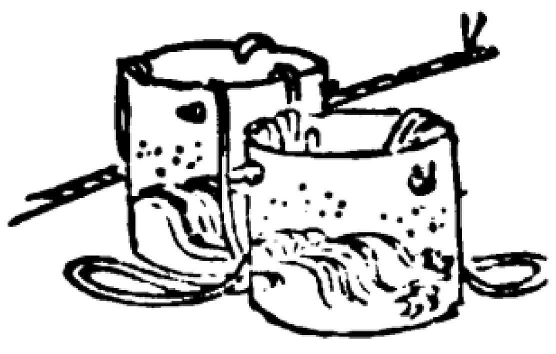
Original from
CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

衿山から七寸下ッて付けるのです。

丈二尺五寸の並男半纏の裁縫法

常巾一丈七尺で裁つ見積もり。　衿巾ハ着物より一分多くし、袖丈も着物より三分多くし、後巾八寸、前巾は衿肩から眞直に折り、巾の寸法を見て裏表の前巾を測り、衿をつけ、縦を先きに、横を後にして半衿に折り目を付けます。　但し半衿は左右を揃へるのです。圖は次號へゆづります。



改良實用衛生料理法（第四）

元鹿鳴館料理人岩間芳松

十六　洋風天麩羅（一名フライ）

鯛、鮃、鰆、鱸を初め、其他の魚何れも鱗を去り、よく洗ひ、大魚ハ切り身に、小魚はろの儘、布巾で水氣を去り、兩面に鹽胡椒をふりかけ、温飩粉を塗り、落ちる丈粉をはらひ、玉子の黄身白身ともよく交せ、魚の兩面に之をぬり（鳥の毛でぬる）パン粉をふり、油で揚げる。

十七　魚類衣あげ　　魚を三枚におろし、骨を去り、横五分竪三寸程に切り、鹽胡椒をふり、温飩粉を丼に入れ、水を一度に交せ、すこし宛ませると粉がねばッく悪い故）、それに玉子の黄身を入れ、白身は大皿に取り、新らしくて小さい目ざるでよく攪き交せれば泡雪のやうになる。　之を前のねッた温飩粉と交せ、魚肉につけて揚げる。　玉子の白身に少でも黄身を入れれば泡は立たず、又粉へ玉子を入れる分量は粉半斤に玉子三の宛。

十八　海老西洋揚げ及び衣揚げ

海老の頭と皮とを去り、尻尾のついた儘背から竪に庖丁目を入れ、腸を去り、布巾でよく水を去り、鹽胡椒をふり、うどん粉、玉子パン粉を次第にかけて前の洋風天麩羅の樣にして揚げる。　衣揚げも同樣、魚の衣揚げと同し揚げ方。

十九　牡蠣テンプラ　　牡蠣は消化よく滋養にも富む品で、之を揚げるにはよく水で洗ひ、水無しの鍋に入れ、鹽少し加へ、火にかけ、少し蠣から水の出る時籠にとり、布巾で水を去り、胡椒とふり、うどん粉をまぶしつけ、玉子の黄身白身の交せ汁に蠣を入れ、箸でとりあげ、パン粉をまぶしつけ、油鍋に烟の立つを見て手早くあげる。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

二十　天プラに用ゐる汁製法　鰹節の煮出し汁に味淋をよく煮詰めた物（之を味淋の煮切りといふ）か又は砂糖を少し加へる。これが汁で、外に卸大根と生姜とを添へて出す。

廿一　生蠣レモン酢漬け　生蠣にレモン酢をしぼり入れて食べる。其法殻のまゝの牡蠣の蓋をとり、直に鳥の毛に鹽水をつけて蠣を洗ひ、此中に清水に鹽を少し加へ、皿に盛ッて出す。皿の回りにレモンを竪に切つてつける。レモンは西洋八百屋にあり。

廿二　生蠣日本酢漬け　蠣の身の端の黒い處を去り、水で洗ひ、酢に鹽を加へて又一度洗ひ、丼に入れ置き、酢に生姜の絞り汁又は芥子酢を加へて出す。

芥子酢製法は日本製上等の芥子のアクを抜いて搔き、擂り鉢でよくすり、裏漉しにし、之に味淋の煮切り又は砂糖少し加へ、鹽を入れ味をつけて充分に解き、之も酢と添へて出す。又橙柚子などの酢ならば一切上品で味もよし。

文藝美術

細川幽齋和歌の主義漫評（其一）

戰國に生まれて戰國の猛惡に染まず、血の雨を見て春の暮れるのを惜しみ、太刀影を見て寒月の思ひをなし、矢叫びの間を歷めぐる間、ひそかに文事を弄して心をなぐさめて居た偉人は古代に乏しくも無く、その昔を言へば八幡太郎に始まり、或は貞任兄弟、或は源三位親子、或は義貞、或は尊氏、後に至りて信玄、謙信、その中最も一家の識を備へて、直に定家家隆の髯をひねり、和歌の一派の大將となつて居たものは細川幽齋ばかりです。烏丸光廣朝臣の筆記により幽齋の說も充分今日に殘るもの丶、猶その筆記の讀みにくいため務めて批評した人も有りませんでした。因つて爰にその一斑を取つて考へさだめて見ましやう。

幽齋は斯う言ひました「歌をよむに何としても面白くよまれぬ題あり。それを強く案ずるが勞して功なき事なり。それは詞つゞきなどを美しくしつなどして置くがよきなり。連歌などにもつかぬ處あるが如し。つゝじ、山吹き、杜若などいふやうな物は何とも面白くはよまれぬ題なり」。如何にも餘寒、五月雨、殘熱なども詠みにくい題です。強く案じ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

るなと幽齋がいふのは刻苦して作つても天眞を損じた、言はゞ片輪物で句などをつくり出す患へが有るとての故でしやう後世連歌からわかれて十七文字の發句及びその他類似の物が出來ましたが、さて句の必迫に止むを得ず、强ひて冒して天眞を失ッたのが大分有りました。　其甚しいのは蕉門の末をけがした輩で、また一方は究まりぬいた談林派です。　幽齋が言ッたのは品題を主とした言葉ですが、しかし鑄型に入れた美術を作るなとの戒めでしやう。

幽齋がまた言ひました、「當代の歌は皆連歌なり、いひつめたがりて强きなり……喜撰法師わがいほはの歌、人はいへどもと言はいで叶はぬ處なり。　然るをいふ也と云ひたる面白し。」　慶長頃の歌を連歌と評したのは活眼です。　當代は明智光秀、紹杷、頓阿、利休など其道に堪能な人ゝ中々有りましたが、何れも句をつゞめて意味を足さうと熱心した餘、終にその浪を和歌にまで及ぼしました。　そもく餘情といふ物は句をつゞめたばかりで決して出るものでは有ません。言ひながしたにしろ、意匠に餘情のある言ひ方ならば「ゆふされば門田のいなば音づれて」の歌のとほり充分の餘情は出る譯です。　句を儉約するの餘、むしろ無理に情よりも姿から餘情を深くしたのが當時連歌者の通弊で、而も慨かはしい事には此弊風が幽齋沒後、やがて元祿に至つてますく甚しくなりました。　元より元祿の文學は一時の隆盛をきはめた物、その隆盛をきはめたといふのはつまり既に衰滅の種を充分に發育させて居たのです。　畢竟するに昔の歌は餘情ふかく、後世のは餘情淺いといふ、その前人の餘情の深い歌を作る原因をたしかに明らめて後人が思ひを餘情に運らしたなら決して元祿のこの失策は持ち來たさなかッたのです。　元來詩歌は感情から來る物、そして感情は一先理で殺がれて更に大悟して理の奥に至ッて感情と理は相合体していはゆる完全の餘情となるのです。　上代の人が自然に感ずる、その感ずるのに人により高下も有りますが、しかし後代理のまさッた完全の餘情とは疎密もとより殊なる物で、それで前人が餘情の深い物を作ッたのです。　が、後世の人は情としてその時代とは違ッて居て、心緒の復雜の度もまた比較には爲らぬ、しかし猶また完全の餘情を得るといふ奥まで進まなかつたところ、それで直に取ッて古への餘情に擬して思ひと新奇に運ばうとした、是が慶長及び足利文學の弊風で、さて終に元祿に至ッて究まッたのです。　唯芭蕉のみは後世で仰ぐだけあ

ッて實に完全な餘情とば得て居ましたが、しかし一般の潮流は倭子で充分に支へられず――支へらるべき繼續者の無かッたため――却ッて又一方にわるい摸範を殘して割り合ひにその利を多く止めませんでした。

（未完）

少女裁縫の歌

こゑも　冴えて　厂　とほく　飛ぶ。
　犬の　聲　川とも　わたる。
いざや　冬、　虫も　機
　れり＝はてゝ　しづかに　ねふる。
はるの　きぬ　われも　ぬひてむ。
　ろひぢする　母を　たよりに
ほのぐらき　ひかりに　たどる。
　すゝめ　針、　あだにな　折れそ。
みを　つくし　着ぞめの　ときの
　ねりどめに　なれよ、　あゝ　針。

利己の歌

犬を　かへば　犬　われを　戀ふ。
　たゞ　餌をし　のぞむ　ばかりに。
人に　あへば　人　われを　呼ぶ。
　たゞ　ねがひ　のぶるのみにて。
世の　中ハ　利己の　もの　かな、
　道徳も　利己の　かげ　なり。
たゞ　宇宙、　言ひ＝かへて　神
　かみ　ばかり　いと　高く　在す。

東西美術相互の影響

この頃船載したロンドン板の小説（カース　オフ　コシュウ）の表紙は誰が見ても日本風を摸した物で、即ち朱で隈なく塗ッた大陽の前に浪が有ッてそこに又二羽の鶴（一疋が飛び出し、一疋ハまだ）が有る圖で、巧拙はしばらく置いて兎に角これ一でも日本美術が無茶苦茶に泰西に行はれて居るのが知れます。　一昨年の米國のクリスマス贈與本の中にハ全く日本風に仕立てた製本のもあり、昨年夏の佛國の雜誌の附錄にハ北齋に擬して書いた外人の筆もあり、かれ是わが美術

のます〳〵行はれて行くには違ひ有りませんが、更に深く考へて見れば最も怖るべき心持ちもされます。外人が全く日本に擬せやうと思ッた諸美術は唯日本美術の奴隷となるのを示すより外別段の事も無く、東國の吾々から見れば其幼稚な似せ方を笑ひたくなる心持ちもしますが、さて此間のハアパースモンスリー雜誌に出た、展覧會繪畫の中の橋上夜景の圖などを見れば却ッて外人の敏捷にまた驚かれもします。明かに其圖案は一枚賣りの錦繪の兩國花火の圖を取ッたものですが、その脱胎の精妙及び附けくはへた意匠の靈玄に至ッては唯敬服するのみです。全圖の中央左から右へ橋を走らせ、橋杭を一二本見せ、橋のアヽチの下はるかに燈の見ゆる窓の石造家屋を薄黒く、どッしりあらはした手際、日本から脱して更に日本の臭味を帶びぬ、いはゆる精を抜いた畫です。吾吾もこのやうな名畫を廣く愛讀諸君にも示したく、今まで一二枚は板も試みましたが猶不完全で充分を得ず、たゞその内には成効して御目にかけるつもりです。外人が日本風と摸擬するのはまだ〳〵日本美術の奥を知らぬ内の事、意匠を脱胎する事この夜景のやうに爲るものばかりにならば實に末の恐ろしい事、日本の美術家のすべからく腕に縒をかけられるべき事です。

かへりみれば油畫が始めて種を日本に移してから既に三十年の星霜は明らかに過ぎました。その間高橋五姓田などの人々も無くは有りませんが、約めて言へば是ぞと言ッて他日美術歴史に載るほどの大作の出來ぬといふのはまことに長大息のいたりです。大作の出來ぬ、まだ見ゆるしも出來ます。日本從來の繪畫に影響をさへ與へられぬのは最も油畫のため惜しい事で、その原因も種々ありましやうが、兎に角日本從來の繪畫に影響するだけの洋畫(廣く意味す)が無いのと、日本從來の繪畫世界に固陋の風習が殘るのと此二が重な原因であるには違ひ無い事です。洋畫が日本に於ける勢力はこの位のもの、最も洋畫を學ぶ人の奮ふべき時、それでその向きの專門家のため最も惜しむべき事が現在有ります。われ〳〵が過日の上野馬見所の油畫展覧會について思ひついた事實です。

(未完)

第六回　懸賞文藝得點の分

題　紅葉少女

取捨標準　第一意匠の新奇○第二調及び修辭○此二件を備へた完全の物を一等とする事。

○文章

あら紅葉！二月の花よりもといふ紅葉、夕日に輝いてこゝが骨といふ見どころ。その下に少女がたゝずんでながめるといふのも夢、一吹きの木がらしには飾る錦もたまらず風をろめました。　無常の風、さて怪しからぬ、　思へば博士の筆將軍の鞭たゞ握ッた儘でも落ちて、　そして佳人も才子に吻けぬ間花しぼんで唇に温い春も無くなる事です。　風はやうやう凪ぎました。はなれかゝッて餘命にわなゝく殘んの葉。たゞ凪がぬのハ少女のおもひ、わなゝくのは其唇。あゝ「年々歳々人おなじからず」。…………右…山本とみ子（フタレマ）

右いらつめ一部進呈の分

眞葛尾花、背中秋のをとりおろして紅葉の木影にやすらふ少女のうるはしさ。　物を思ハぬ姿はまこと山ひめの心をとめた紅の色ふかい梢も趣きをゆづるばかり。「たちまさる色やいくしほ」とのむかしの歌そのまゝ咲く花もさて及びましやうか。　あゝ此少女──花の少女ハ定めし咲き散りを伏せ屋に寄せて知られぬ春をかさねて居る事でしやう。　てもつらい務めをそれとも思ハぬ心根、むしろ梢のくれなゐと少女の身のにしきと見ましやう（注、新明題和歌集「のべにさく花のにしきにたちまさる色やいくしほみねの紅葉々」）………

右…三坂さぬ（サカヒ）

右三等賞いらつめ三部進呈の分

第八回懸賞文藝新題（唱歌浄瑠璃及文章に限る）

右　歳暮。　十二月十五日〆切

第九回懸賞文藝新題（和歌唱歌詩浄ルリ及文章に限る）

右　かるたあそび。　十二月廿五日〆切

第十回懸賞文藝新題（俳句唱歌詩浄ルリ及文章に限る）

右　美人雪夜に彳む。　一月十日〆切

第十一回懸賞文藝新題（俳句唱歌詩浄ルリ及文章に限る）

右　難破船の圖題　一月二十日〆切

以上のとほりで唱歌浄ルリ及文章は各一千五百字以内に限る。題を種にして成るべく趣向を立てるのを尙ぶ事。賞品は本紙廣告欄にあります。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

雜纂

裸體婦人書禁止

いよ〳〵内務大臣は府下の繪双紙屋にひさぐ裸體婦人書の中の猥褻なのを擇んで發賣をさしとめられました。　風俗上此くらゐな制限は仕方の無いことで、之に對して不服を唱へるものは又無い譯です。　唯この禁止の特に裸體婦人書に屬するのを見てまた世人は裸體人の書が一般に禁ぜられたと思ッて折角の研究すべき處と打ち捨てるやうになるかも知れません。　猥褻な裸體書が禁止にあッたのを喜ぶと同時、また吾々には多少この感じも起りました。

併しながら又思ひかへせば今までひさいて居る裸體小兒の圖は更に差しとめの不幸に遇はなかッたとの事です。　之に就いて考へれば、即ちどのやうな物が禁止になッてどのやうな物が禁止にならぬか、その禁止公許この二の標準で明らかに知れました。　萬々一さうは無いと思ふものゝ、假りに婦人裸體書はたとひ猥褻の分子を一點もとゞめぬにしろ必ず禁止にあふ物と推測しても、猶裸體小兒といふ、外に裸體書研究に堪へる地歩もある事、之に就いて裸體書の想像をば練られます。　たゞに小兒ばかりで無く、通常の人が見て更にあやしまぬ一種の裸體書、すなはち力士相撲などもあります。唯小兒や相撲のみに就いて修めれば肥滿の身體を作る腕は出來ても中庸を得た完全の身體をこしらへる事は出來ぬやうなもの。　その時ハ昔の鶴昇なども研究の材料には爲ります。それは萬一、婦人裸體書とて猥褻に心の有ッて作ッたもので無ければ多分禁止に遇ふ事も有りますまい。　彫刻や繪書に關係される人がまだ失望すべき時では有りません。　群醜の消えたのは今の所大に人々の注意になる事、之に對して更に他日の開運を待ッて句一祝ひましやう。「こがらしや一掃除して枇杷のはな。」

猥褻と徳川文學　　いらつ姫

徳川文學といへば指とその前後二期の最も隆盛なところ、即ち元祿と天保との二に屈します。　更に約めて言へば天保文學は元祿文學が些しの附け加へを得て復活したばかりの物、むしろ徳川文學の代表者となるべき物はその原の元祿文學です。　で、元祿文學の性質は如何な物です。　要するに猥褻がその固有でした、否、作者が目を注いて第一に崇めたところで、間々芭蕉のやうな泥中の蓮も有りましたが、しか

し其他を言へば口に不德義を言ッて恥ぢと思はず、而も其處高い理想の有るためでは無く、たゞ戰國の通弊餘習を受けて醜に染まッて醜と思はぬ方の類。時代が之に有り難味と添へたにしろ、猶見許しがたい處もありました。　たゞその文學世界に於て著名の一二、それらの天才の有ッて一個文壇の英傑であるといふのは疑ひも無い事實、しかしその天才を愛するの餘、その理想までにも呑まれるのは以ての外の事でしやう。　急激な國粹とかいふ說の浪は終に元祿文學をして一時顏を明治の世に出させた、その餘終に言ふに忍びぬ不德の思想を更にこの今日に注ぎ込むやうな事は無いものでしやうか如何。　後世の院本戲曲の思想の原は元祿、そして院本戲曲の特色は何ですか。　文に寫した猥褻は畵に描いた猥褻よりも人を迷はすもの、今日裸体婦人畵の猥褻なのを禁ずる世の中にひとり猥褻な文字を殘す譯も無い事です。　と言ッて之を絕てば古文を亡滅する譯、亡滅しなければまた多少の害も有る事、長大息の至りです。　唯わづかに思ひをやる物を机の上に得ました。誰の句か、「衰へるのも波動、盛るのも亦波動。唯波動の度強弱を比較する時には盛衰もあらかじめ見える」。

身体白色法についての一切の心得（承前）

さて次にはハンドコロン、ポマドンヌール、及び梅の雪、これらの用ゐ方です。　元よりいづれも肌に關係する化粧品その成分も似た處が有ります。　因ッて朝起きて顏を洗ッたのちは先ハンドコロンを塗るに限ります。　塗ると言ッても唯ぬるのでは無く、充分に手で肌へすりこむのです。　すりこみ方が烈し過ぎると皮膚がふくれますから其用心は爲べき事です。　是で大抵顏の荒れなどは防げます。　が、人により油すくなの生れつきも有りますから、その一般の心得を言へば是で風でも吹くとか、風が無くても外出するとかの塲合ひには更にポマドンヌールをその上へ極めて薄く塗る、これで宜しいのです。　さて梅の雪、この方はレモンが重で、即ち日に燒けるのを防ぐもの、之は冬にはあまり必用も無いことゆゑ、冬は御用ゐなさらぬ方が宜しいです。　之を夏用ゐる時にはやはりポマドンヌールと同じくハンドコロンを塗つた上に薄く塗ッて宜しいのです。　が、是にしろ、前のポマドンヌールにしろ、なるべくハンドコロンと塗ッた上かれこれ二十分時間も過ぎて塗るのが宜しいです。

以上前號から書きつゞけた處を充分に守れば奏功は決して

疑ひない物です。　砒石を用ゐて身體を白色にする法は少くも三年の辛抱が無くてハいけません。が、此前號から出した方によれば決してそれほどの長い月日をも要しません。　唯梅毒質、脂肪質などの人に限り、他の類の人より奏功は遲いばかりです。

猶前に言ひ殘しましたが、あたらしい空氣と適度の運動と淸い水とは疑ひもなく身體白色に關係するもので、新らしい空氣を呼吸し、運動を適度にし、そして淸い水を多く用ゐるのは白色法の根本として守らなければなりません。

紅白粉を顏へ塗り、また熱い湯などで肌を蒸すのハ最も肌に害のある至りです。　くれ〴〵も御注意あるべき事です。

ボマドンヌールはその實白色に效能のある物でハ無く、白色に効のあるのは只ハンドコロンばかり。ボマドンヌールハ肌のあれを防ぐのみです。　が、肌のアレはその白さをなすのに大きな邪魔となるもの、それ故白色法にはボマドンヌールも間接に有効です。

砒石白色法は今その安全な分量を取りしらべ中ですからその濟み次第掲載します。

生れ月により婦人の性質を知ると
いふ歐米の奇説

「一月うまれ。　つゝしみ深い世話女房、すこし嫉ぎ勝ちかも知れず、しかし性質は善良、美服を好む。

二月うまれ。　良人にしたしみの深い細君、慈愛な母、着物に氣を揉む。

三月うまれ。　かろ〴〵しい性質、すこし喧嘩好き、上衣と髮かざりに氣を揉む。

四月うまれ。　動き易い氣性、さほど賢くもなく、たゞし一寸見付きのいゝ婦人、流行ものゝよく似合ふ類。

五月うまれ。　顏かたち美麗、愛嬌のある性質、着物の着ぶりが上手。

六月うまれ。　怒りやすく、かろ〴〵しく且多辨、早く良人を求む、はでな衣裳を好く。

七月うまれ。　うるはしい顏かたち、たゞし言葉少なでそして利かぬ氣、目ざましい衣服を好む。

八月うまれ。　愛嬌が有ッて深切な性質、美服を好む、富んだ人と夫婦になる。

九月うまれ。　つゝしみ深く、正しく、ろして親しみ易

い性質、流行ものがよく似合ふ。

十月うまれ。　可愛らしく、狎れやすい性質、人の目につく粧飾を好く。

十一月うまれ。　心ひろく、深切で、平和な氣質、一寸氣取った、いはゆる粋な衣服に氣をもむ。

十二月うまれ。　つり合ひ正しく發育した身體、珍らし好き、すこし氣前のいゝ方、美服を好む。

右が歐米に行はれる生れ月により婦人の性質を知る卜占です。　あたりましやうか、外れましやうか。　いらつめ方御自身にこれを考へて御覽なさい。

小と大。　泉は小さな物、しかし末は大河となります。　舵は小さな物、しかし船の行くのを定めます。　釘は小さなもの、しかし百丈の家もこれがため建ちます。　笑顔はつまらぬ物、しかしこれがために仇と友とが出來ます。　つまり小は大の基、あなた方が倚る机は槻、その槻は一粒の實から生えた物です。

眞理の恐れるのは唯曖昧ばかり、匿し事ばかり。

流行

髪は桃わりがます〳〵處女がたの間に行はれます。

管。　若い人には耳かき無しのが流行。

櫛。　京丸が大流行、鬢かきには阿龜形即ち阿福形。

衣服地小紋　今は織り小紋、その勢は染め小紋を壓倒して居ます。

女子用文章獨學び（第一）

男女の文體については日外も大日本教育會で色々の議論もありましたが、詰まる處今日是ぞといふ適當な考へも出ません。　今婦人方の學ばれるために女子用文章の心得から始めてその作り方に押し及ぼすつもり、就いては取捨に便にするため在來の風に似た文章と言文一致の文章とを並べ添へて御稽古の便りにします。

用文章の心得、これをわければ幾にもなりますが、約めて言へば只(一)意味をよく通す事、(二)無益の飾りを添へぬ事、これら二より外有りません。　(一)の意味をよく通す事は元々手紙を書く目的です。　まづ誰にしろ手紙を書く、その手紙はつまり言葉の代理です。面と面とあへば言葉で言ふのを離れ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

て居て其處で文章に言はせるのです。　さて既にさうある以上は決して何の目的も無く、無益に手紙を書く譯は有りますまい。　何にしろ、角にしろ、祝ふなら祝ふ、願ふならねがふ、いづれ何かの目的が有ッて始めて手紙を用ゐる事になるのです。　して見れば手紙の主の務めも知れましやう。　其務めといふのは即ち己が言はうと思ふ趣意をよくわかるやうに先方の相手に通す、これで目的は達するのです。　既にそれならば目的さへ達するに於ては手紙の役は濟むものです。

併しながら、それでは手紙は言ふ事さへとほれば役が濟むとして、字は何うでも其他の事もまたどんなにしろ搆はぬかとの疑ひも出ますが、其處に又考へる事が有るのです。　成るほど目的さへ達すれば手紙の役目は立ちます。　が、さてその文字が不明亮でゞも有ッて御覽なさい、どうでしやう、目的を達するのに邪魔が無いものでしやうか。　いや〳〵決して左樣でありません。　字のわかりにくいのは手紙の文章の意味を達する邪魔をば非常に爲るには決ッて居ます。　世には隨分手跡のわかりにくい人が有ッて、その人の書いた字は何だかさつぱり分からず、そのため其肝要な趣意が曖昧になッて仕舞ふ事も度々有ッて、時には甚しく迷惑する事なども有るのは誰しも知る事です。

それゆゑに意味を達するといふのが第一の目的にしろ、さて第一の目的を達するのに是非とも必要なのは文字を明らかに讀み易く書く事です、　まづ日本人は一體に手跡のいゝ方ですが、西洋人などは隨分不器用な字を書くもので、そのため間違ひなど起した話しは度々有ります。　文字を明らかに讀み易く書くといッても決して字をうまく書くと強ふるのでも有りません。　手跡の美事なのが決してわるい事では有りません。　が、たゞ字はまづくても讀み易くわかりやすいならばむしろ字がうまくて讀みにくいのには優るのです。　以上、これが手紙を書く人のため最も注意すべきこと、必要の第一です。

意味を達するための注意の第一は文意の曖昧を避ける事です。　これまでの日本文章には曖昧の文言が多く、物を注文する時でも、其品の數は三なら三、五なら五と正しく決まッて居るにも關らず、何個ぐらゐとか、何々ほどなど空漠と書いて自他とも怪します、甚しいのは四五本ぐらゐなど曖昧に更に曖昧を添へるのが普通です。　是は數量にのみ就いての話しですが、猶全體の文意に於て主客の混亂が甚しく、意味

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

の錯雜する時には恐ろしく不都合を感じる事が有ります。是等がすべて嫌ふべき事、極言すれば不徳義、不信用の限りです。　優長な塲合ひならばいざ知らず、用事の早く辨ずるのを尙ぶ世の中にははなはだ望ましくない事です。

　第二に無益な粧飾をつけぬ事、これが日用文の最も必要な事です。　筆を弄はし、句を辨ずる大家の論文か詩文なら餘議ない事、日用の文章に無益な語句のかざりを添へるのは其手紙を書いた人の不見識をあらはす譯です。　われ〳〵記者は日に何本もなく全國淑女方の御手紙に接しますが、その中で此弊に陷ッて居るのは最も少いやうに見受けて、これをば常に悅んで居ます。　無益なかざり、それが唯飾りに止まッて居るものならまだ宜しいです。その害の及ぶ處は終に文意を妨げ、よく文意不通を起すやうな事もある事、さう爲ッては最早只の飾りと云ッて打ち捨てゝは置けません。　兎に角飾りは出來るだけ避けるべき事です。

結婚の時期　　ある人が老貴婦人に「御幾年であなたは今の旦那と御婚禮なさいました。」――「はい、婚禮いたしました時には丁度本サイ（甚歲）となりました」。

欅の肺病

不思議な冒題ですが、實に事實もまた奇です。　欅といふものは群ッて生える事の出來ぬ性質で、然るべき一枚板として用ゐられる位にまで成長するには是非とも四段十八歩の坪に四十本以上植ゑては置けぬとの事で、多く植ゑればいづれも完全な發育が出來ずに終るものです。　それ故に一の軍艦を作るには欅の數少くも千六百本は入りますから、隨ッて四段十八歩の四倍の地坪の欅の森をば盡くす譯で、そしてその位の欅の年數は大抵百年です。　之によッて數ふれば今日英國にある海軍總數の軍艦を作るのは年々にどうしても四段十八歩の十五万倍だけの地坪の欅を盡くす事になります。　一寸した事ながら隨分驚くべき事です。

名刺の用ゐ方について

集會などの節には成るべく名刺を持參すべき事。　名刺を忘れるのはその會を重んぜぬ譯になります。　但し用ゐつくして餘義なく初對面の人にも名刺を出せず、終に宿所をも知らせずに其日わかれたなら相手の人に其翌日か翌々日あたり端書で自分の宿處を知らせるのが禮です。

薔薇油の事

薔薇油の日本に來て居るのは主に支那產、又は西洋產の下等ぐらゐな物です。 薔薇油で世界第一等との評のあるのはばるかん地方で、ばるかん產の薔薇油を使ひこなせるものは英佛わたりでも餘程の貴族か女役者です。 その筈、その價の高さは日本で想像の出來るものでは無く、薔薇油一匁ならば鈍金半匁、一斤なら半斤、すべて油の量の二分の一だけの金の價で賣り買ひします。 ばるかんでも南部の方が最上のを製出します。

齒及び口中を洗ふに最も適當な水

齒と口中とを洗ふに最も適當なのは齒磨きより何より硼砂を薄く溶かした水が宜しいです。 用ゐ方は矢張り通常の齒みがきのとほりブラシにつけてゐれで齒をみがくのです。 口中は含嗽しただけで宜しいです。

來訪者へ對する返辭

來訪者に返辭をせぬのは取り次ぎの不行き屆きです。 返辭をして來訪者を出迎へ、扨姓名を問ふのが禮です。

國語故事づくし(其四)

に

よしの市　京の東と西とに東の市と西の市との二の市場が有りました。 ゐの事です。

錦をあらふ。 支那に蜀江といふ川があッて、その川で晒した錦は蜀江のにしきとて有名なもの。 それを故事に紅葉の歌などに詠みいれる事になりました。 「あじろぎに紅葉こぎよせ、よるひをはにしきを洗ふ心地こそすれ」と後拾遺にもあります

錦木　むかし陸奥で男が女に言ひ寄るには一尺ばかりの木を斑に色どり、ゐの女の門に樹てゝ置き、さて女が承諾する氣ならばその木を取入れます。 もし否む時にはたとひ幾本樹てたにしろ決して取り入れぬ、それから錦木は千束になつて朽ちると言ひ出しました。 詞花集に大江匡房、「おもひかね、けふたちそむる錦木の千束にならであふよしもがな」とあります。

にひばりのいくよ　日本武尊が酒折りの宮で「珥比麻利菟玖波塢須擬氐異玖用加稱菟流」と言はれた言葉から出たので、「ニヒバリ」は今でも新治といッて常陸の部にあり、加

茂の翁の解によればニヒバリは新鞠で即ち新鞠をツクバと掛けられたとの事です。

は

はかのまもり　右衛門と左衛門との事です。

星をとなふる　四方拜の祭りの趣意です　年中行事の歌に「すべらきの星をとなふる雲の上に光りのどけき春はきにけり」。

はりえ　難波堀江の事です。

へ　無し

と

とりのそらね　「とりのそらねははかるとも」の清少納言の歌によって人に知られた句です。　意味は孟甞君が鷄の作り聲で函谷關をのがれた故事によったのです。

とよとしのしるし　即ち豊年のしるしで雪の降るのは豊年の瑞といふ意味です。

とよのあかりの節會　今の新甞祭りで、即ち今年の新米を神にたてまつってさて主上が聞こしめされる節會です。

とよをか姫　天照皇大神の事です。

とつかの大刀　伊奘諾尊が青海原を探られた御劒の名で十柄とは十握りといふ義です。

となりの笛　支那の向子期が叔夜と親友であった處、叔夜が死んで後その舊宅を過ぐるとその隣家で笛を吹く体。それにつけ坐に以前自分も叔夜と音樂など玩んだ事まで思ひ出し、思舊賦といふのを作った、その賦は文選に載って居ます。夫木集に「ひとりねも今はなにゝかなぐさまん、となりの笛も吹きやみにけり」。

とのゐもり　内裏の宿直です。　左近衛は亥子の時、右近衛は丑寅の時を守りました。

とこよもの　橘は仙家、即ち常世の物とて、それで橘をとこよものとつけたのです。　萬葉集に「とこよものこのたちばなを彌照りにわが大君はさもに見ること」。

とこよの神　はだか虫の事をいふとの口傳です。　古歌「名にし負はゞ祈らむものをひとりねの常世のかみのめぐみありやと」。

浮いて居る鮫を木とおもやまって海で鳥がこれにとまり、直に食はれて仕舞ふとの事です。　目をさだめず、ろして休みをむさぼる者の運はみな是です。

答書

第廿八號疑問への答へ

問 羅紗帽子のシミを落とす法…………石川信子

答 羅紗に油氣のついた時はポタツシユをとかして水で、たやすく扱けますが、羅紗地を損ずる事が有りますから注意して直に冷水か又は石鹼水で洗はなければなりません。 又こゝに手輕な法が有ります。 それは汚點のある處へ吸取紙を敷き、その上を火熨斗で摺るのです。 また蠟、ペンキなどの付いた時は安息香油、硫酸エーテルなどで拭ふのが宜しいのです…………右…撫箏女史(ミノ)

第廿九號疑問への答へ

問(イ)最上の婦人枕つくり方…………知遠女

毛皮製の小枕が最上です。 衛生上は素より頭髮を損せないで宜しいです。…………右…愛菊女史(オホサカ)

問(ロ)胡瓜を青漬けにする法…………知遠女

答 醋酸鉛クロールバリユーム或は水酸化バリユームの背性溶液をまぜた鹽水へつければ常に青漬けになッて居ます。…………右…愛菊女史

問(ハ)黑子の痕のアバタを去る法…………關口某女

答 (右にはたしかな答へも來ませんでしたが、丁度取りしらべが濟みましたから次號の雜纂に於て詳に言ひます)。

問(ニ)最上饅頭製法…………田中醜婦

答 餅米五合を蒸てほどよく冷まし、それへ麹五合外に饅頭屋で用ゐた絞り殼を五合ばかりに水一升五合をよく交せ、冬ならば炬燵などの側に置き、さて是で甘酒が出來ます。そして初め甘くなり、後しぶくなるを度とし、炬燵から出すのです。 粉は上等のを一貫目、それへ前の甘酒即ちモトを絞りませ、餅ぐらゐの堅さにねり(柔過ぎぬを尙ぶ)、桶に入れ、冬ならば炬燵の側へ置き、半日ほど經て取り出し、饅頭をこしらへるのです。 製法は餡を入れ、饅頭焙爐で蒸し、少し脹れるを度として蒸籠に移し、充分ふくれるまでふかしそれから取り出して風にあはせるのです。 餡は小豆一升に白砂糖四百五十目の割りでこしらへるのです…………右…旭てるを(トチギ)

問(ホ)一般に利くワキガ療法…………ちとせ

答 單寧溶液へ燒き明礬を入れ、どろどろにし、朝夕腋の下へぬると全く癒えます…………右…愛菊女史

外に山口縣増野氏よりも御答へでしたが是と大同小異でしたから省きました。

問（へ）油足をなはす法…………司馬絢子

答　油足は性質ゆゑむしろ直すと却ッて害になるかと存じます…………右…愛菊女史

答　茗荷の葉をよく折り、打ッて足の裏へふれる處へ入れて置けば油足はよく直ります。之を履物の表にしても同じ効があります…………右…樋口はじめ

寄書

奇妙な名刺　　本郷弓町二丁目三番地　槐月陰史

此處ハ神田小川町。今夜ハ五十の縁日で。例になき賑かさ！餘り人通の多いせいか、互に身を寄せて歩む若い男女――どう見ても夫婦とハ見えない――男女には幾對となく行過ひます。勿論朋友でせう――斯う親しいところでは。でも其言葉使で見ると、どうも……

此の人通りの多い中を遠慮もなく走る車夫。これを避け樣と片へに寄りし途端。すれ違ッたのハ十六七の娘。其娘の袂から何か落ちたる物がある。しかし其娘ハ知らない樣子。拾ひ上げて見れば一枚の名刺。呼留めて渡さうとした。が、受取りません。

「妾ハ何方にもそんな名刺などを頂いた覺ハありません。」

「でも、みす〳〵貴孃の袂から落ちた品。」

「いえ、存じません。」

何遍繰返しても同じ事。見れば今名刺を落した娘の顔には、はや紅葉を染め出した。氣の毒と思へば予も强いて云ハず。交番の燈火に照して見れば、東京何區何町何番地何某方何某と印刷してある。其姓名の左の肩にハ「戀しき令孃」と墨にて黑々と書いてある此の名刺があの娘の袂から……」暫時ハ呆れた。今思へば娘の受取らぬも無理ではない――たとい知ッて居たにしても。斯う思うせいか、行過ふ若い男女の擧動も斯樣名刺の成した業かと思ハれる。アヽ。嘆ハしき事！傷はしき事！

通信問答

心得第一　通信問答は無手數の事〇第二　御問ひ合はせの事が答へを載せる雜誌の八號前にあればそれには委しく答へず、只其所在を言ひます〇第三　特に普通に有益と認めた問ひには廣く答案を募ります〇第四　御問ひ合はせの文字並びに文章は明亮に書くべき事

ＳＩさまへ　砒石白色法は取り調べの都合も有りますからまだ出せません。併し近い内には是非出します。

眞空居士さまへ　痰の作用でも無くて咽の腫れて長く續かぬのハ御通信だけでは療法も知れません。然るべき醫者の診察を御受けなさるが宜しいです。

翠水女史さまへ　古人の筆蹟を損ぜぬやうに寫すのハ寫眞に取るより外仕方ありません。

増野房人さまへ　（一）生きた鼠を籠に入れて飼ッて置き、鼠の出る處へ置くと鼠のあれるのが防げるとの事です。鼠を殺すにも砒石を食物に交ぜて食べさせるのですが、劇毒物ゆゑ危險です。鼠を逐ふにはコロール石灰を置くさい、との事。鼠ハその臭氣をきらひます。又鼠の通行の路にミツハギを置くのも宜しいです。

撫琴女史へ　（一）薄黑色の目鏡をかけ、明る過ぎず又暗過ぎぬ處で物を見。時々遠くを望んで目を養ふより外仕方ありません。すべて細かな物や薄くらがりハ毒です。（二）貴人への手紙ハ白紙に認めるべき物です〇三三

さだ子さまへ　顔の毛を抜き去る法は第廿七號通信内で小林定子さまへ答へましたが、御覽でしたか。但し御情實も折角の事。よく取りしらべて見ましやう。

小林いし子さまへ　鼻の赤いのを直すにハカルヽス泉鹽二十グラムツ茶碗一杯の溫湯にとかし日に一杯づゝ、一ケ月服用するのです　初め少し下りますが、心配にハ及りません〇二九

疑問　（イ）牛肉馬肉簡易鑑別法（ロ）屠牛肉と死牛肉の簡易鑑別法…増野房人第卅一號疑問、しつかりした手跡の婦人手紙用文并習字本ハ何でしやう…紫蘭渡音娘右諸答の方にハいらつめ一部進呈〇其答（イ）（ロ）ハ十二月八日限り、第卅一號疑問は本月かぎり。

畫題　老梟月に叫ぶ圖

山ひくゝいとふつきゝけ
　あをざめて呼吸絶ゆげなり。
千丈の椋の老樹
　みきくろく秋の色濃し。
かゞやくは宿鳥の魂か
　血をわびてまなくきらめく。

美妙齋主人

風啼いて枝さだまらず、
　なみを打つうぶ毛たゆひく。
ゝなこぶし岩をもくだけ。
　なにぞそのねぐらの小鳥。
わくやまれゆめもしばらく。
　生き死にはわが指にあり。

餘興新題

(一) 田の字形の謎、其一我國の市名に雨具の名、其二虫と獸の名、其三東海道の驛名に果實の名、其四木と支那上古那國の名、其五第一と同じ……小林やす子

(二) 一から九までの字を殘らず用ゐて意味の完全した文を御つくり下さい……槐月陰史

(三) 魔術師が菜にカギをかけて立派な花を咲かせましたが、何の花でしやう……霞城女史

(四) こゝに五人の兄弟が有ります。其一は皆樣御嫌ひの虫、其二は活物其三は數其四は人體の附屬物其五は愛相らしいものです……同　上

(五) 腹から食べ背から吐くもの何……撫箏女史

(六) 方形謎、其一鳥二、其二獸二、其三家具二、其四人體の中の名三、其五織り物假名遣ひ搆はず)……石川のぶ子

(七) 日本の稱呼を分拆すれば日本の中の國名二となる……同　上

皆答者にはポマドンヌール一壺、六題解答者にはいらつめ一部いづれも進呈。解答紙は第三十三號に附錄として入れます。其號の解答紙に認めて無い解答は沒書。御投寄の新謎を裁せれば其號一部進呈。　解答御送付は十二月八日〆切

社告

注意 いらつめ第廿四號に處方を出したハンドコロン、及び第廿八號に製法を載せたポマドンヌール共近頃麁惡な劑料を以て僞造品を賣る者が有ります。翁屋へ托して弊社で發賣させる上は一々劑料を吟味しますが、麁惡な劑料で名を冒して發賣されるに於ては其効驗の無いのは勿論の事、啻に弊社の迷惑のみか又御求めの各位の御損です。東京では直接に翁屋から御求めになる便も有りますが、地方ではそれも叶はず、蔭ながら御迷惑御察し申します。因って今度から手數ながら弊社で地方の各位に右兩化粧品賣買の御紹介を致します。御用の御方は弊社又は翁屋へ向けて直接に御申込下さい。其場合ひに於ては弊社で包の紙に保證の捺印をして差し立てます。御申し込は定價を添へるに限ります(郵券代用御斷)。定價ハンドコロン一瓶七十五錢、ポマドンヌール廿五錢、遞送料其他御注文の心得はいらつめ第廿九號の廣告にあります

成美社發送掛

御弘めのため豫約各位にポマドンヌールの見本を差し上げましたから御用ゐを願ひます又地方豫約各位は郵券六錢御送付になれば矢張り同樣見本をさしあげます

明治二十二年十一月

成美社發送掛

第八回以後の懸賞文藝賞品は左の如く定めました

一等賞◯清親良信二氏の内御好みの書家の手に成つた肉筆絹地彩色畫一面(書帖になる丈の大きさ)●二等賞いらつめ三十部●三等同三部

成美社

◯いらつめ廢本非常廉價賣捌の儀前號に廣告しましたが早速賣れて最早殘り少なになりましたから御用の方は至急御注文下さい その内第十二號第二十四號は悉く皆賣切 是は廢本で無い分も有りません◯第二號第廿五號の廢本は皆無となりました◯廢本一冊金六錢(定價八錢)十部以上十五部以下一冊二錢五厘十六部以上廿五部以下一冊二錢◯郵稅各五厘宛◯前金領收の上發送の事

廿四號以後の廢本は皆無

成美社發送掛

植木枝盛著述

東洋の婦女

定價四十錢　全國無遞送料

東京神田小川町　集成社

其他賣捌各書林